

# 大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

グローバルイノベーションデザイン・プログラム(以下、「GIDプログラム」)

【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムではイノベーションデザイン力、プロジェクト実行力、国際的コミュニケーション力を持ち、クリエイティブな思考に基づきイノベーションを創出できる国際的な人材「グローバルイノベーションデザイン・リーダー」の育成を目標とする。

【構想の概要】

本構想は創造社会におけるグローバルイノベーションデザイン・リーダー育成を目的とした米・日・英の国際連携教育プログラムである。3大文化経済圏のリーディングスクールである提携大学に半期ごと滞在することで、トランス・ナショナルな教育環境を実現する。修了者には在籍校の修士学位が授与される。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 米・英・日の3拠点が連携するGIDプログラム向上のための取組

第2期となったGIDメインプログラムの改善と円滑な運営のために、ビデオ会議システムを用いて、提携大学教職員との合同運営委員会を毎月開催し、カリキュラムの調整を行った。さらに提携大学訪問中(平成26年7月)には、対面による3拠点合同運営委員会を実施し、第2期メインプログラムのカリキュラムの詳細設計に関する再調整を行った。

### ○ 招聘教授による特別講義科目の開講と外部審査員によるアドバイスのヒアリング

プログラムの質の向上をはかるため、国際的に影響力のある教育者やイノベーションデザイナー3名の招聘教授の雇用を行った。また、国内外の有識者である評価委員にヒアリングを行い、実社会で必要とされている国際的な人材を輩出できるよう、プログラムの質の向上に取組んだ。

〈Julia Cassim教授による特別講義の様子〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈メインプログラムの様子〉



### ○ 米・英・日の3拠点が連携するGIDメインプログラムの実施

平成25年度に引き続き、修士教育課程の一環であるGIDメインプログラムを米国Prattと英国RCA/Imperialと提携し行った。平成26年5月に帰国した第1期生に対して、本プログラム終了の評価基準を設定し、GIDプログラムサーティフィケート授与のための成果発表会をした。その結果、すべての学生が本プログラム終了の評価基準を満たした。その内4名が平成27年3月に本研究科を修了し(他4名は平成27年9月修了予定)、米国シリコンバレーでの起業や国際企業に就職し、グローバルイノベーションデザイン・リーダーとしての第一歩を踏み出した。現在は提携大学と綿密なコミュニケーションをとり、第3期生の受入・派遣準備を進めている。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成26年度、メインプログラムでは米国へ8名(うち日本人5名)、英国へ8名(うち日本人5名)、ショートプログラムでは学部生11名(すべて日本人)を米国へ派遣した。計のべ27名(うち日本人学生21名)を派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

メインプログラムに参加した外国人留学生は、米国の提携大学Prattから11名、英国の提携大学RCA/Imperialから11の計22名である。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	4	21	26	27	20
学生の受入	4	6	19	22	25

注)H23~H26は実績、H27は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ カリキュラムの改善

派遣学生の語学力の強化のため、提携大学での語学強化授業の履修を調整した。また、外国人学生の受入れに対しては、KMDが得意とするデザインとテクノロジーの融合領域を社会・ビジネスとの関わりの中で実践的に学ぶカリキュラムを提供した。

### ○ 帰国後の自主的国際交流

帰国したKMD学生は本学に留学中の受入学生の生活・学業面のサポートを自主的に行っている。これにより、帰国後も英語力を保持でき、留学中だけの国際交流体験だけに留まらず持続的な国際交流が保たれている。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

### ○ 国内外での成果発表および受賞

本プログラムの成果発表会を国内(計5回)と米国(平成27年度5月開催)で行った。また、「東京デザイナーズウィーク2014」(平成26年度10月開催)、「IE-KMD Venture Day」(平成26年度12月開催)、シンガポールで行われた国際会議「Augmented Human 2015」(平成27年3月開催)で発表した本プログラム学生が賞を獲得するという成果もあげることができた。